

◇続いては「連体詞(れんたいし)」と「副詞(ふくし)」。

「**連体詞**」と「**副詞**」、よくわからない。苦手。…と思っている人、多いかもしれませんね。

《例えば、こういう単語が連体詞。》

あらゆる いわゆる 聖なる 単なる ひよんな とんだ 我が(わが) たいした
 去る 来たる …「去る」「来たる」という動詞もあるけど、それとは別物の「連体詞」。
 この その あの どの … 代名詞じゃないよ! ★①
 大きな 小さな … 形容詞じゃないよ! ★②

★① 代名詞の「これ」「それ」「あれ」「どれ」に似ているけど、

「この」「その」「あの」「どの」は名詞の代わりにはならないので、代名詞ではありません(^o^)

★② 形容詞は、活用のしかたが「かる、かつ、く、う、い、い、けれ、かれ」(←教科書等の「活用表」で確認してね!)となりますが、この中に「な」(「大きな」の「な」)は入っていないよね。

ということは、「大きな」は形容詞ではないということ! 同じく「小さな」についてもそう言えます。

「大きい」「小さい」という形容詞と一緒にかと思ってしまうがちだけど、形容詞ではないので注意(≧▽≦)

連体詞の特徴。

その1 : **活用しない(活用がない)**。未然形、連用形…等と形が変わらない。

例えば、「あらゆる」は、「あらゆるない」「あらゆるます」等とはならないよね!(変だ!!(@▽@))

形が変わることはなく、必ず「あらゆる」という姿で使うよね。これを「活用しない(活用がない)」と言います。

その2 : 必ず、**体言(名詞)を修飾**する。

「修飾(しゅうしょく)」とは、「飾る」こと。「説明」と考えてもいいかな。「つながる」と考えてもいいかも。

例えば、「あらゆる」という連体詞で見ると、

- ここにはあらゆる本がある。 ○ あらゆる本がここにはある。
- 私は世界中のあらゆる国を訪れた。 ○ 私はあらゆる料理を食べ尽くした。

あらゆる…本 あらゆる…国 あらゆる…料理	}	→ 「あらゆる」は、すべて、体言(名詞)につながっているよね。 (どんな本、どんな国、どんな料理…と、名詞を「説明」している)
-----------------------------	---	--

× 私は料理をあらゆる食べ尽くした。

→ こういう文はないね。あらゆる…料理、と「あらゆる」が体言(名詞)に正しくつながっていないから、こういう文は存在しないのです(×o×)

上の 囲み で例として挙げている連体詞の中で、あまり聞いたことのないものもあるかもしれないけど、

「ひよんなことから、彼と知り合った。」 ←「ひよんな」↓「とんだ」の意味は辞書で調べてみて!

「このたびは、とんだことになりまして…」 「先日はとんだ失礼をいたしました。」

「去る六月十日に、第二回定例会議が行われました。」 「来たる八月十日に、第三回定例会議が行われます。」	}	両方とも「日付」を修飾しているけど、 どんな違いがあるかな?
--	---	-----------------------------------

「たいしたケガじゃなくて良かった。」「たいした奴だよ、あいつは。」

→ 下線の語はすべて体言(名詞)。連体詞は体言(名詞)につながる、ということがわかるね♪

以上のような特徴を、どの連体詞も持っています。

└ ちなみに、体言(名詞)につながって(連なって=つらなって)いく、という特徴を持っているから「連体詞」と呼ばれるのだ。呼び名に特徴が出ているよね(^o^)

《例えば、こういう単語が副詞。》

ゆっくり(と) かなり いきなり ひっそり(と) 少し いつも ずばり(と)
少しも(~ない) たいして(~ない) もし(~なら、~たら)

副詞の特徴。

その1 : **活用しない(活用がない)**。未然形、連用形…等と形が変わらない。

例えば、「ゆっくり」は、「ゆっくらない」「ゆっくります」「ゆっくる」等とはならないよね！(「ゆっくる」ちよつとかわいい…笑)

この点は連体詞と同じ。副詞も「活用なし」です。※「ゆっくりと」とはなるけど、これは「活用」のうちに入らないよ。注意注意。

その2 : **主に、用言(動詞・形容詞・形容動詞)を修飾する**。

└ 連体詞は、ここが「必ず」だったの。連体詞は「必ず」体言(名詞)を修飾するけど、

副詞は、「主に」用言(動詞・形容詞・形容動詞)を修飾します。副詞はたまに体言(名詞)なども修飾するよ。

例文1 : 私はゆっくり、その箱を戻した。

↓この「ゆっくり」が修飾する(つながる)のは？

× ゆっくり…その × ゆっくり…箱

○ ゆっくり…戻した これが正解♪ 「戻す」という動詞を修飾しているね(^o^)

例文2 : 今年の夏はかなり、東京も札幌も気温が高かったので、母も私も熱中症にかかった。

↓この「かなり」が修飾する(つながる)のは？

× かなり…東京 × かなり…札幌 × かなり…気温

○ かなり…高かった この文の「かなり」は「高い」という形容詞を修飾しているね(≧▽≦)

× かなり…母 × かなり…私

× かなり…熱中症 × かなり…かかった

(^▽^)< 「かなり…何だ?」「かなり…どうだ?」と探すと、見つけやすいと思うよ♪

★ つまり、連体詞と副詞は、「活用なし」「他の語を修飾する」という点では同じだけど、 ★

★ 修飾する「相手」が違うんだね。連体詞→体言を修飾、副詞→主に用言を修飾！φ(. .) ★

「副詞」はさらに、中学校の教科書だと大きく3つの種類に分けられています(と、思います)。

└ **状態(じょうたい)の副詞** これはさらに細かく分けられていて…

・頻度(ひんど) : 「いつも」「ときどき」「たまに」等、どれくらいの回数かを表す副詞。

・時間 : 「すぐに」「しばらく」等、時間的にどれくらいかを表す副詞。

・音(擬声語 ぎせいご) : 「がたがた」「わんわん(犬の鳴き声)」等、音をそのまま表した副詞。

・様子(擬態語 ぎたいご) : 「のびのび」「にっこり」等、雰囲気(音は出ていない)で表した副詞。

例) 机をどんどん(と)たたく。 → 音(擬声語)

本をどんどん片付ける。 → 様子(擬態語) 音が出ている、出ていない、の違いね♪

└ **程度(ていど)の副詞**

「かなり」「少し」等、どれくらいの程度か、どれくらいの数・量か、などを表す副詞。

例えば… 10段階のうち、7か8 → 「かなり」 (^▽^)<かなり多い! (+△+)<かなり痛い!

10段階のうち、2か3 → 「少し」 (+_+)<少し回復してきた…

このように、(・▽・)<10段階のうち、どれくらい? という質問に答えるようなイメージ。

でも、このイメージだけで全てまとめられるわけでもないのよ、他にどんな副詞が「程度の副詞」なのか、教科書に載っている「程度の副詞」の例をよーく見て、自分なりのイメージをつかんでみてね。

└ **呼応(こおう)の副詞** ← 「陳述(ちんじゅつ)の副詞」「叙述(じょじゅつ)の副詞」とも呼ばれるよ。

次のページへ続きます(^o^)/

